

第3回利賀ダム環境モニタリング委員会 議事要旨

開催年月日/会場	議事	出席委員（敬称略）	議事要旨	
令和6年2月26日 Web会議（Teams）	①第3回委員会の指摘事項と対応 ②令和5年度モニタリングの実施状況 ③令和6年度モニタリング計画（案）	阿部 學（日本猛禽類研究機構理事長） 稲村 修（魚津水族館前館長） 大井 徹（石川県立大学生物資源環境学部 環境科学科 里山動物研究室 特任教授） 中田 政司（富山県中央植物園園長） 中村 浩二（石川県立自然史資料館館長） 南部 久男（元富山市科学博物館館長）	第2回委員会の指摘事項と対応	・指摘なし
			令和5年度モニタリングの実施状況	・ドブシジミ調査結果について、死貝が多く確認されていること、6月の調査結果のみでは定着状況の判断は難しいと考える。複数回の調査による判断が必要と考える。また水質の調査も併せて実施できるとよい。
			・過年度にドブシジミの調査に同行したが、生息地は狭い範囲で生息環境が変化しやすい条件であった。そのため、移植地に安定して生息し続けるかはわからないため、新たな生息地の確認等の調査を実施してもよいかもしれない。	
			・浮石状況の確認ができており評価できる。アカザ、カジカなどは、浮石部分が主要な生息環境となっているため、このような確認は重要であり、今後も継続していただきたい。	
			・本調査で外来種のみズワタクチビルケイソウが確認されており、今後、藻類相の環境の変化から、魚類を含め、いろいろな生物に影響を与える可能性がある。みズワタクチビルケイソウの生育状況を含め、注視していく必要がある。	
			・ヒキガエル類調査について、一部調査できていない箇所があるが、調査時期を遅らせて河川の水量が少ない時期に幼生調査を実施し、口の形態による識別やDNA分析を行う方法もあるのではないかと。	
			・ナガレタゴガエルが確認されていない。富山県での確認例は少ないが、北陸地方における繁殖期は2～4月であり、調査がしにくい時期であるため確認されていないのかもしれない。	
			・ハクバサンショウウオは百瀬川流域で確認されており、調査地周辺にも生息する可能性がある。	
			・他ダムの水位変動帯などで外来種のアレチウリやイタチハギ等の繁茂が報告されている。モニタリング段階でなるべく早く侵入の傾向を捉えるように、注意しながら調査を進めていただくことを希望する。	
			令和6年度モニタリング計画（案）	・植物調査について、チョウジソウは挿し木が容易であったこと、生育状況も良好であったことから調査を終了することで問題ない。今後は植物園で管理していく。コアニチドリの移植は順調であり、モデルケースとして評価できる。
・調査等で作成した標本等取扱いについては散逸しないよう今後検討をお願いしたい。				
・来年度の委員会では猛禽類調査成果の紹介をお願いしたい。				
・水質調査を含め、調査は全般的に適切に実施されていると考える。残土受入地の水質調査については、実施場所も含め、適切な調査計画を検討すること。				